

## 第7学年 道徳科 指導案

日 時 令和3年 1月16日(土) 第3校時  
対 象 第7学年  
学 校 名 板橋区立志村第三中学校

- 1 主題名 お互いを認め合う【B-9 相互理解, 寛容】
- 2 教材名 『自分だけ「余り」になってしまう……』(日本文教出版)
- 3 ねらいとする道徳的価値について

自分の考えや意見を表明しつつ、互いに相手の個性を認め、考えや立場を尊重する態度は、よりよい人間関係を結ぶための必須条件である。他者のよいところを互いに認め合う相互理解、寛容の心はこのような態度と一体であり、他者から謙虚に学び、自己を高める心を育むことは意義深い。

### 4 ねらい

いろいろなものの見方や考え方があることに気づき、寛容の心をもって謙虚に他者から学ぼうとする態度を育てる。

### 5 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	○ふだんの生活体験を振り返り、発表する。	・体育のとき、ペアが見つからなくて困った。	●今まで経験したことを発表させる。あまり深入りせず、答えられる生徒だけでよい。

展開	<p>○教材「自分だけ『余り』になってしまう……」を読み、考える。</p> <p>○いじめに対する思いを考える。</p> <p>○重松さんの気持ちを考える。</p> <p>○友達の行動から考えたことをまとめる。</p> <p>○筆者の生き方から学んだことをまとめ、全体で交流する。</p>	<p>好美さんはどんな悩みをもっているか。</p> <p>・二人の親友と離れて一人になった。 ・二人組になるとき私だけ余ってしまい、恥ずかしく、寂しい。</p> <p>中学生のとき、重松さんは友だちのとった行動からどんなことに気づいたのだろう。</p> <p>・友達のほうが心に余裕がある「おとな」な対応。 ・自分の都合しか考えずにずるをしたので、負けた気分。 ・一人になるのが怖いという臆病な気持ち。</p> <p>「余りの一人」を分かち合えるようになると、どんなよいことがあるのだろう。</p> <p>・一人でいることが怖くなくなる。 ・譲ることがかっこいいと思えるようになる。 ・自分の都合を優先せず、みんなが「おとな」な対応ができるようになる。 ・みんなが同じ立場を経験することで、お互いの気持ちや立場を理解できる。</p> <p>お互いに認め合って生きていくために、大切なことを考えてみよう。</p> <p>.</p>	<p>●好美さんが困っていることを整理させる。</p> <p>●重松さんの回答を読ませる前に、好美さんへのアドバイスを生徒に考えさせ、自分が考えたアドバイスと重松さんのアドバイスがどう違うかを考えさせる。</p> <p>●友だちの振る舞いは、自らが「一人になる」ことで、誰かが「一人になる」ことを避けようとしたおとなの態度であることを押さえる。</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>●</p>
まとめ	<p>○授業を振り返り、感じたこと、考えたことを記入する。</p>		<p>●授業で出てきた意見をもとに、これからの生き方についてまとめる。</p>

## 6 評価

ねらいについて：問題解決的な学習をとおして、「余り」をつくらない生き方のために、互いの存在を認め尊重し合うことが大切だといった発言や記述が見られたか。